

調査報告

繁殖期2023・① 繁殖期調査でのトピック

5月～6月に実施しました「繁殖期2023」調査、皆様のご協力が無事終了しました。調査に参加されました皆様に感謝します。今回はトピック的な話題を紹介します。

1. フクロウの定着・繁殖 今年の調査で力点を置いたフクロウやアオバズクの生息・繁殖について、さっそく成果がありました。フクロウについては、すでに公表されている皇居や赤坂御用地のほかに、市街地の複数の緑地での生息や繁殖が記録され、とくに繁殖については専門家によって正式に発表される予定です。また、アオバズクについても新規の場所での調査・保護活動が行われています。

2. サギのコロニーとオオバンの繁殖 水辺でも新規の記録がありました。練馬区の石神井公園にサギのコロニーができました。種類はアオサギ・コサギ・ゴイサギの3種。三鷹市の井の頭公園ではオオバンが1番い営巣し、5羽のヒナが誕生しました。内陸部の水辺での繁殖は初めてと思われます。

※写真や関連記事は研究部ホームページにアップされています。ご覧ください。

<http://www.yacho-tokyo.org/birdstudy/>

高尾山の最近10年間の様子

吉邨隆資 (TakaoBirdSurvey グループ)

毎月のようにTV番組で取りあげられて、高尾山を訪れる登山者は高尾山口駅の利用者数で見ると年間平均200万人からコロナ影響で一時120万人に下がりましたが、5類移行で戻ってきています。この間には残念ながら定例探鳥会は開催されていません。果たして野鳥の動向はどうなっているのか？今年6月までの10年間の記録から出現状況の変化を見てみました。

この10年間に増加の見られるのはサンショウクイ2019年秋～、クロツグミ2022年夏～、ハシボソガラス2019年秋～、ソウシチョウ2021年冬～、サンショウクイはリュウキュウサンショウクイの進出により増加。サンコウチョウも2020・2021年に記録されました。また2014～15年に大きく減少したイワツバメはその後回復しています。10年間で新たに記録されたのはイソヒヨドリ2020年3月とカオグロガビチョウ2023年4月の2種、とうとうカオグロガビチョウが高尾山にまで来てしまいました。その後には記録していません。

至近の一年間でヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、エナガのカラの仲間とカワラヒワ、イカル、ウソのアトリの仲間、ヒヨドリで大きな減少が見られます。ホオジロは記録しなくなりました。冬に大きなカラの混群に出会わないと感じていましたが、記録にも表れていました。急激な減少であり今後の動向が気になります。夏鳥ではイワツバメ、サンコウチョウ、クロツグミが増加。ヤブサメ、オオルリが減少。ホトトギス、センダイムシクイ、キビタキは変わりありません。冬鳥では増加種はなく。クイタダキ、ゴジュウカラ、シロハラ、ツグミ、ウソ、シメ、カシラダカが減少。ミソサザイ、ルリビタキは変わりありません。

